

令和7年6月30日

7月号 No.477

発行責任者

校長 西村 学徳

所在地 福生市熊川 623



日本語のよさを再認識 ～新たな言葉との出会いから～

副校長 中島 恵大

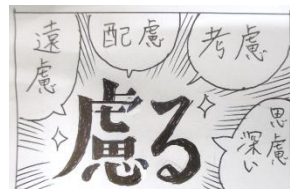
もうすぐ7月を迎えます。既に6月の中旬頃から、気温が35度前後の日が訪れ、熱中症予防をしながら、子供たちの安全管理を最優先して教育活動に取り組んでいます。それにしても、「四季」や「梅雨」など、日本らしい季節・気候はどこへ行ってしまったのでしょうか。数日前、社会科を教えている教員と、「日本はかつて春・夏・秋・冬と四つの季節がありました。今は夏と冬の二つです。」と教える日がくるかも知れないと話しました。今年の夏が猛暑でないことを祈るばかりです。

さて、表題にも書きましたが、私は恥ずかしながら教員になってから新たに出会った日本語が二つあります。

一つめは、「慮る」です。「おもんばかり」（又は「おもんばかり」）と読みます。意味は、「相手や状況を深く思いやり、慎重に考える」ことです。私は、「遠慮」「配慮」「考慮」「思慮深い」といった熟語ではこの「慮」の字を見ることはありましたが、まさか送り仮名が付いて訓読みが存在することなど全く知りませんでした。読み方に「ぱ」の音が入ることも印象的で、とても衝撃的だった覚えがあります。



遠慮は相手を優先する態度であり、配慮は相手を気遣う優しさであり、考慮は相手を理解して自分の行動を選択する思考力であり、そして思慮深さは、相手や周囲の状況から総合的に物事を考える慎重さであると考えます。いずれも自分以外の相手や周囲への思いやりを表す言葉です。「慮る」は、それらの多様な意味や絶妙なニュアンスをたった一言で表すことのできる言葉だと分かり、日本語のもつ素晴らしさを再認識しました。



二つめは、この四月に福生第二小学校に着任してから初めて知った言葉です。それは、校歌の一番の歌詞「見はるかす」です。意味は、「はるかに見渡す」ことです。校歌では「見はるかす 富士のすがた」と歌っており、「どこまでも広がる景色の中、はるか遠くの富士山を見渡す」といった内容かと思います。初めて聞いた時には、何のことか全くわからず、周囲の校歌の歌詞から察して、ようやくその意味が理解できました。



恐らく「見る」「はるか」を組み合わせた言葉から成り立っていると思いますが、この一言でどこまでもはるか遠くまで広がっている情景や、遠方に山々や海を臨む様子等、単純な言葉の組み合わせ以上の意味を的確に表していると思いました。というのも、新校舎屋上にて学校周囲の景色を見て「これが、見はるかすということか。」と強く実感したためです。



これからも、まだまだ新しい日本語に出会う機会があるかも知れません。その度に日本語のよさを再認識していくのだと思うと楽しみでもあります。さあ、次はどんな言葉に出会えるのでしょうか。